



大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.  
のびゆく力、未来へ

# 会社説明会および 2014年11月期 決算説明会資料

2015年1月9日



## 目次

I.	2014年11月期連結決算	-----	p.3
II.	2015年11月期連結業績予想	-----	p.8
III.	中長期経営計画 Next Stage 10	-----	p.16
IV.	中期事業計画	-----	p.27

# I. 2014年11月期連結決算

## 業績概要(連結)

(百万円)

	'13/11	'14/11		
			増減	前年比
売上高	22,559	23,790	1,231	105%
営業利益	1,185	1,358	173	115%
経常利益	1,366	1,468	102	107%
当期純利益	946	891	△55	94%

売上高: 前年比105%

・電子材料の販売が好調に推移し、増収

営業利益、経常利益: 前年比115%および107%

・電子材料の売上増加と化成品の設備投資償却負担の減少により、増益

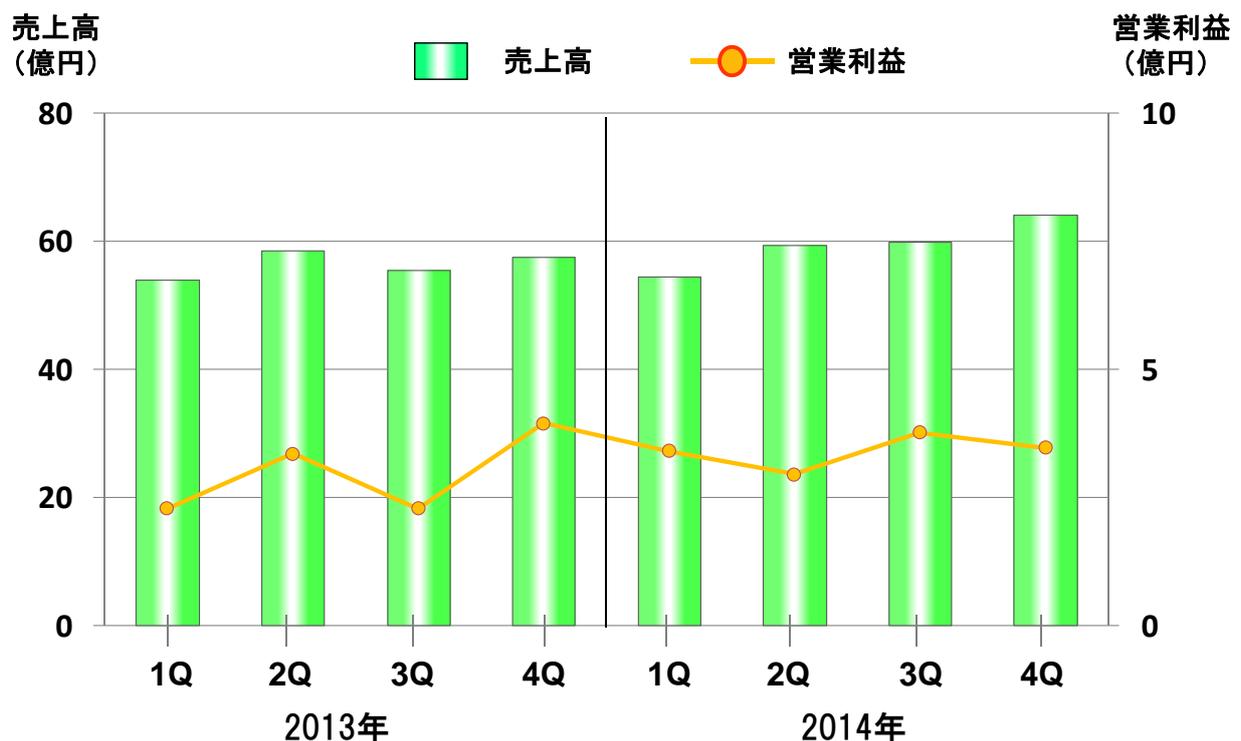
## セグメント別業績概要(連結)

(百万円)

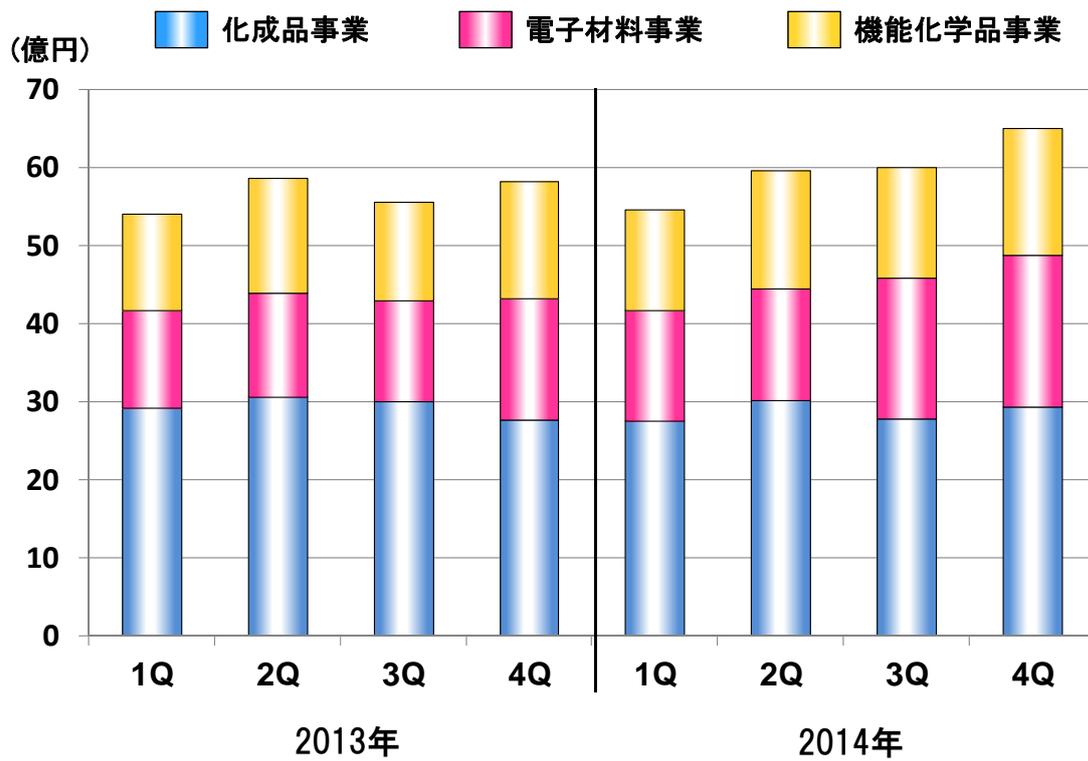
	'13/11	'14/11	増減	前年比
<b>売上高</b>	22,559	23,790	1,231	105%
化成品事業	11,743	11,483	△260	98% ※1
電子材料事業	5,448	6,618	1,170	121% ※2
機能化学品事業	5,367	5,688	321	106% ※3
<b>営業利益</b>	1,185	1,358	173	115%
化成品事業	263	259	△4	98% ※1
電子材料事業	839	983	144	117% ※2
機能化学品事業	90	116	26	129% ※3

- ※1 化成品事業、売上高・営業利益：前年比98%および98%  
・自動車、電材関連が好調もメタクリル酸エステルの販売低調により、減収・減益。
- ※2 電子材料事業、売上高・営業利益：前年比121%および117%  
・半導体材料の販売が好調に推移し、増収・増益。
- ※3 機能化学品事業、売上高・営業利益：前年比106%および129%  
・撥材や特殊溶剤の販売が好調に推移し、増収・増益

## 売上高と営業利益の四半期推移



## セグメント別売上高の四半期推移



## II. 2015年11月期連結業績予想

## 2015年11月期業績予想概要(連結)

(百万円)

	'14/11 (実績)	'15/11 (予想)		
			増減	前年比
売上高	23,790	23,970	180	101%
営業利益	1,358	1,337	△21	98%
経常利益	1,468	1,424	△44	97%
当期純利益	891	919	28	103%

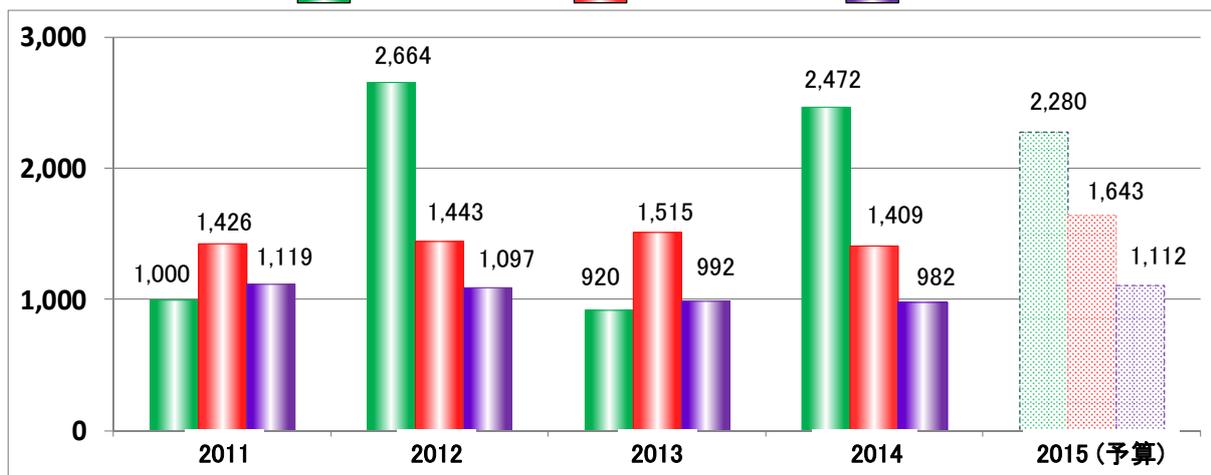
売上高は微増、営業利益・経常利益は共に微減

## 設備投資・減価償却・研究開発費

(百万円)

■ 設備投資

■ 減価償却費

■ 研究開発費


主な設備投資案件(2015/11月期)

- ・研究試作設備増設
- ・危険物立体保冷倉庫

## 化成品事業＜実績と予想＞

**事業方針** 持続成長のための安定収益基盤事業

### 対策

- 営業利益率アップのために
- ・生産性向上によるコストダウン
  - ・海外市場への拡販強化
  - ・高付加価値品の上市

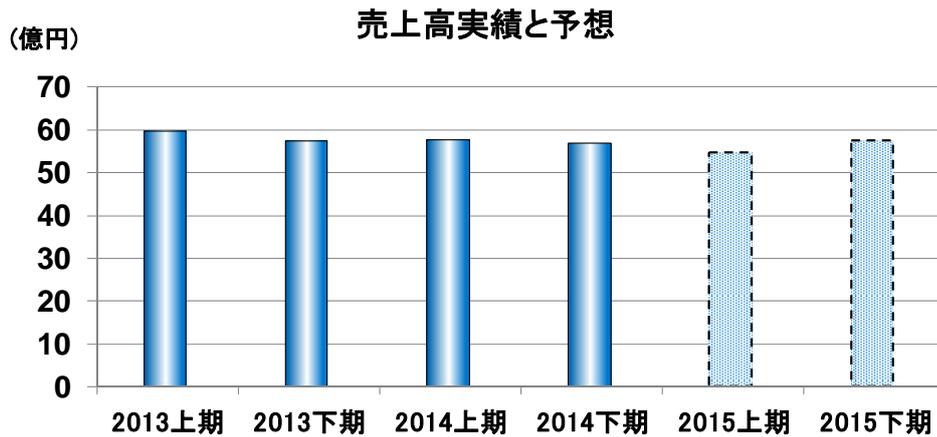


自動車塗料



パソコン

### 実績 ・ 予想



## 電子材料事業＜実績と予想＞

**事業方針** 安定した高収益性確保のための事業

### 対策

- ・主力製品のシェア拡大
- ・高精細・高微細化による優位性確保
- ・次世代材料の開発に注力

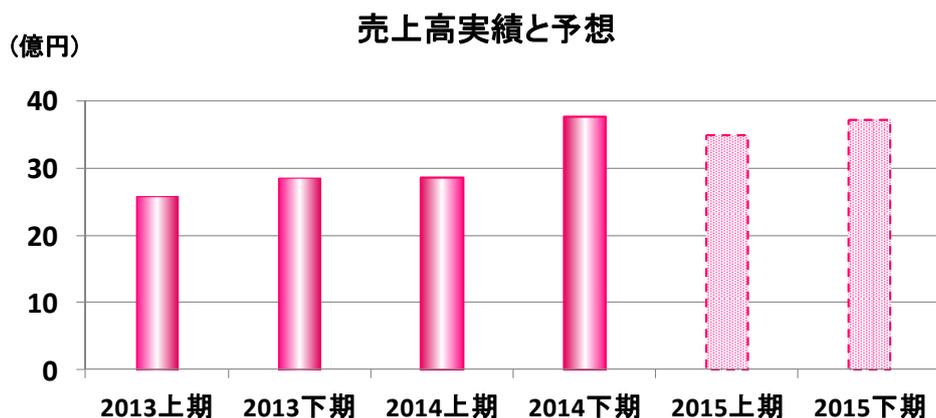


半導体



液晶

### 実績 ・ 予想



## 電子材料事業<トピックス>



半導体

### アダマンタン誘導体事業の譲受

- ・2014年5月 出光興産株式会社よりアダマンタン誘導体事業を譲受(12億円)
- ・アダマンタン誘導体は、半導体向けArFレジストの構成材料
- ・出光興産株式会社では、「アダマンテート」シリーズとして販売していた



- ◇ 当社ArFレジスト用モノマーのラインナップの充実
- ◇ 引き続き拡大が見込まれるArFレジスト用モノマーのシェアトップの地位を確保し、ArFレジスト業界の発展に貢献

## 機能化学品事業<実績と予想>

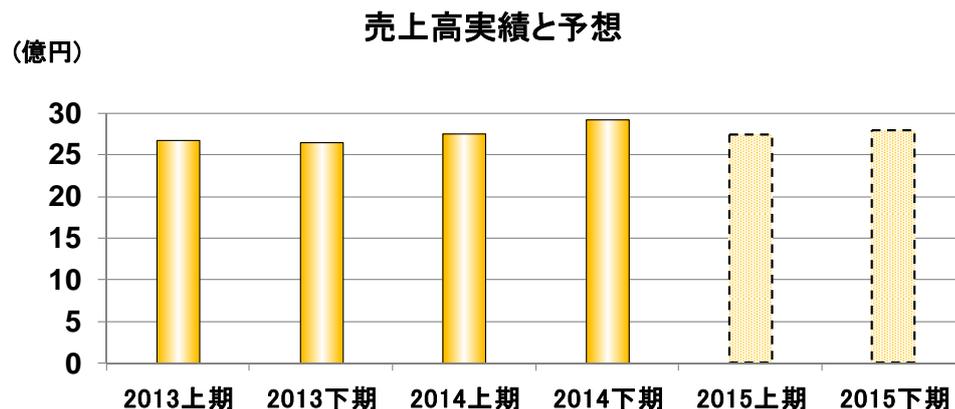
**事業方針** 次期成長分野育成ための事業

### 対策

- ・新規機能材料の販売促進
- ・化粧品基材の海外展開
- ・既存製品の合理化

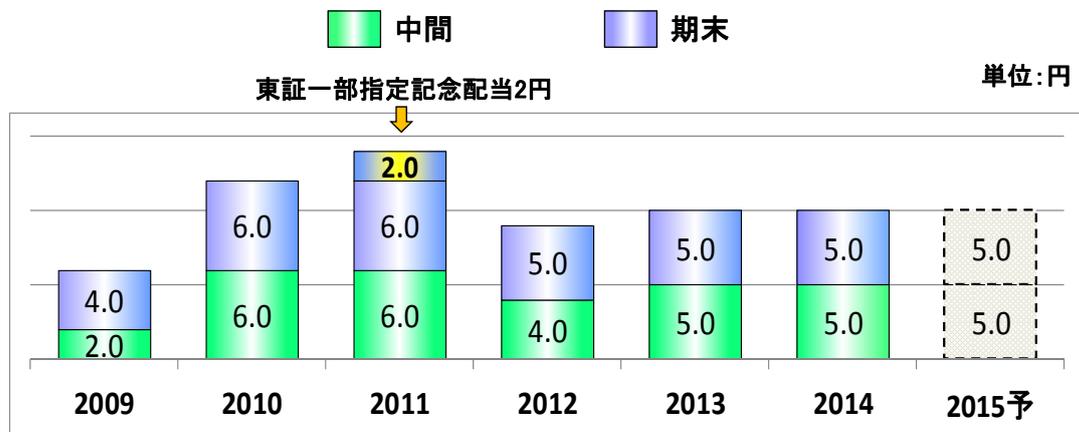
ヘアースタyling剤用  
ポリマー

### 実績 ・ 予想



## 一株当たり配当金

2015年度 年間配当 10円 を予定  
(中間配当5円、期末配当5円)



### 利益配分に関する基本方針

長期的な観点に立ち財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様への利益還元を充実させることを経営の重要政策として位置付け、会社の業績や今後の事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ配当額を決定する

## III. 中長期経営計画 Next Stage 10

# 中長期経営計画策定の背景

## 外部環境認識

- ・革新的商品開発の難易度アップ
- ・業務効率化の必要性増大
- ・市場と競争のグローバル化の進展  
(国内成熟化、アジア・新興国台頭)

## 当社の現状

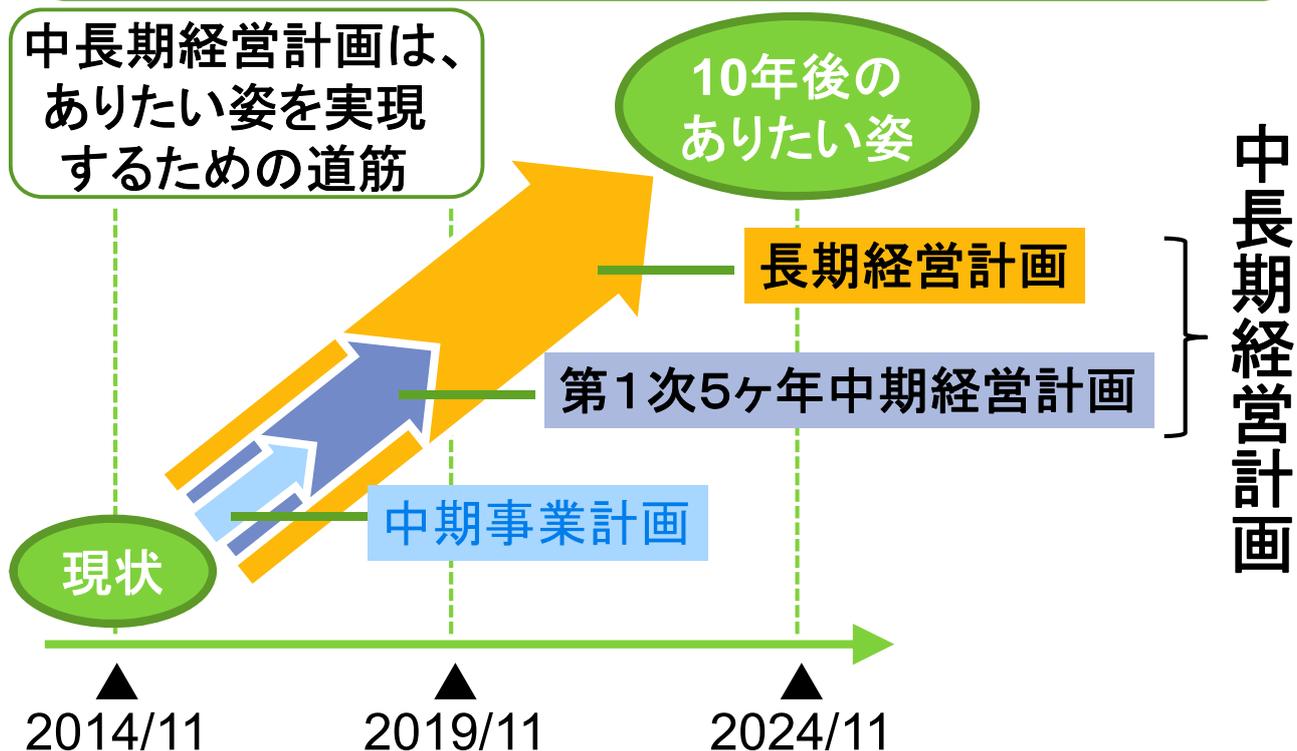
- 売上げ伸び悩み、収益性の低下
- <現状の強み>
- ・少量多品種、高品質製造、顧客密着対応力、研究技術力 等
- <従来の枠組みを超えたチャレンジ>
- ・超親水性材料、アジア拠点開設、事業譲受 等

## 当社の課題

- 従来の中期事業計画サイクル(3年)を超えた事業構造改革・ビジネスモデル変革への取り組み
- ・強み(今後構築するものを含む)に根差し、独自性のある事業の創成による高収益化
  - ・成長分野・エリアの事業機会取り込みによる企業成長

# 中長期経営計画の位置づけ

中長期経営計画は、  
ありたい姿を実現  
するための道筋



## 10年後のありたい姿

『モノマーの設計から緻密に架橋・重合されたキーマテリアル』のグローバルニッチメーカーとして、『表面修飾・配列制御』『高純度』技術により創出する新たな機能ときめ細やかな対応により、お客様のビジネスのイノベーションとオペレーションに貢献

## キーマッセージ

「ユウキの力で未来とつなげる  
ハイエンド & ハンドメイド ケミストリー」

## 10年後の目標

売上高 300億円以上

営業利益率 10%以上

海外売上高比率 30%以上

- \* 川下化を目指した既存事業の収益向上
- \* 海外事業の拡大
- \* 新規事業の創出

## ありたい姿実現に向けた基本方針

1. 既存事業における3つのNo.1  
実現に向けたビジネスモデルの革新
2. 新たな収益の柱となる新規事業の創出
3. グローバル事業の拡大・推進
4. 経営・事業基盤の整備と強化
  - ・ トータルコストの上昇抑制
  - ・ 人材育成・獲得と技能伝承
  - ・ 効率的な組織基盤の整備

## 1. 既存事業における3つのNo.1 実現に向けたビジネスモデルの革新

### 『表面修飾・配列制御』『高純度』技術による機能性No.1

顧客の課題を解決する高機能な製品を継続して開発・提案

### 少量多品種と開発・生産スピードNo.1

顧客要望にきめ細かく対応した少量多品種生産と  
製品開発・試作から工場生産・納入に至るまでのスピード対応

### 一貫製造体制による顧客プロセスのソリューションNo.1

モノマーの品揃え・技術ノウハウとモノマーからポリマーの  
一貫開発/製造体制をベースにした顧客プロセスの  
ソリューション提供

## 2. 新たな収益の柱となる新規事業の創出

『表面修飾・配列制御』『高純度』技術による  
機能性材料の創出

対象分野 : エレクトロニクス分野  
生活・ライフ分野  
環境・エネルギー分野

## 3. グローバル事業の拡大・推進

顧客・市場環境を踏まえた事業展開の加速

### 化成品・機能化学品

中国・アメリカを主たる対象地域として、  
海外売上の強化（海外生産の検討）

### 電子材料

中国・韓国・台湾を主たる対象国として、  
現地生産も視野に入れて、既存顧客の  
海外事業拡大への対応と新規顧客の獲得。

## 第1次5ヶ年中期経営計画の概要(1/2)

### 業績目標

(金額単位:億円)

	2014年 11月期	2015年 11月期 (予想)	2017年 11月期 (目標)	2019年 11月期 (目標)
売上高	237	239	258	270
海外売上高比率	15%	16%	18%	20%
営業利益	13	13	16	22
営業利益率	6%	6%	6%	8%

## 第1次5ヶ年中期経営計画の概要(2/2)

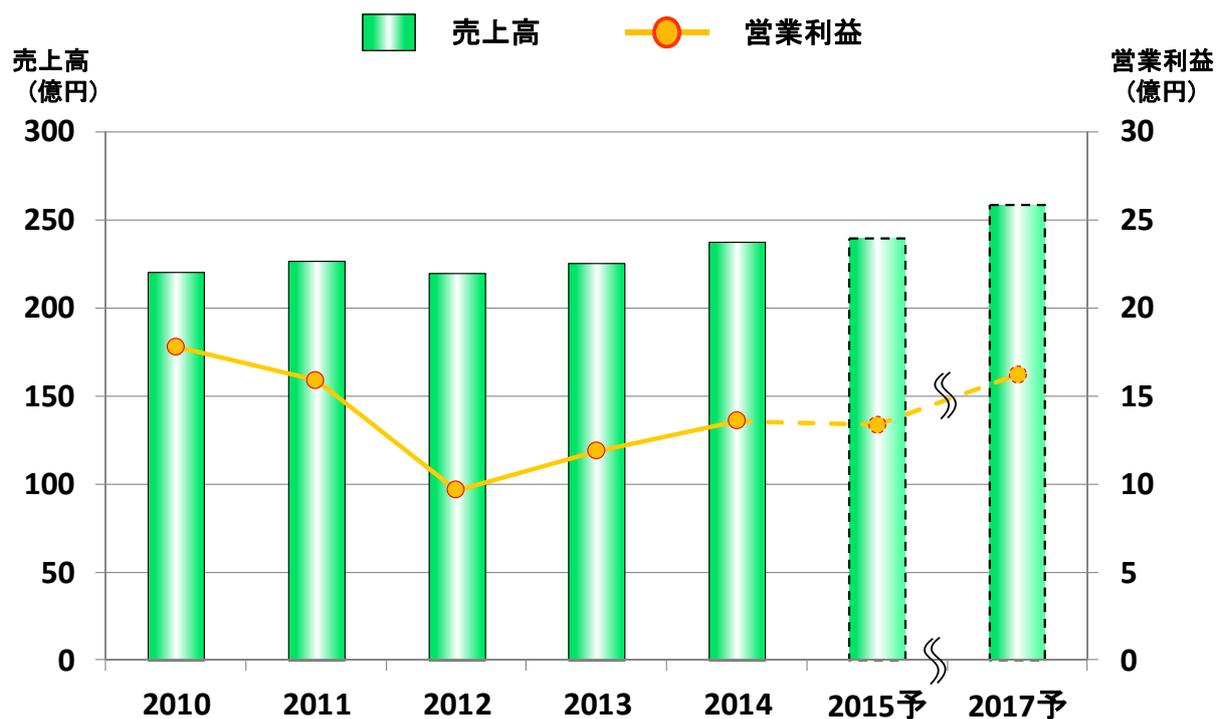
### セグメント別売上高目標

(金額単位:億円)

	2014年 11月期	2015年 11月期 (予想)	2017年 11月期 (目標)	2019年 11月期 (目標)
化成品事業	114	112	119	123
電子材料事業	66	71	78	82
機能化学品事業	56	55	61	65
合計	237	239	258	270

## IV. 中期事業計画

### 当社グループの状況

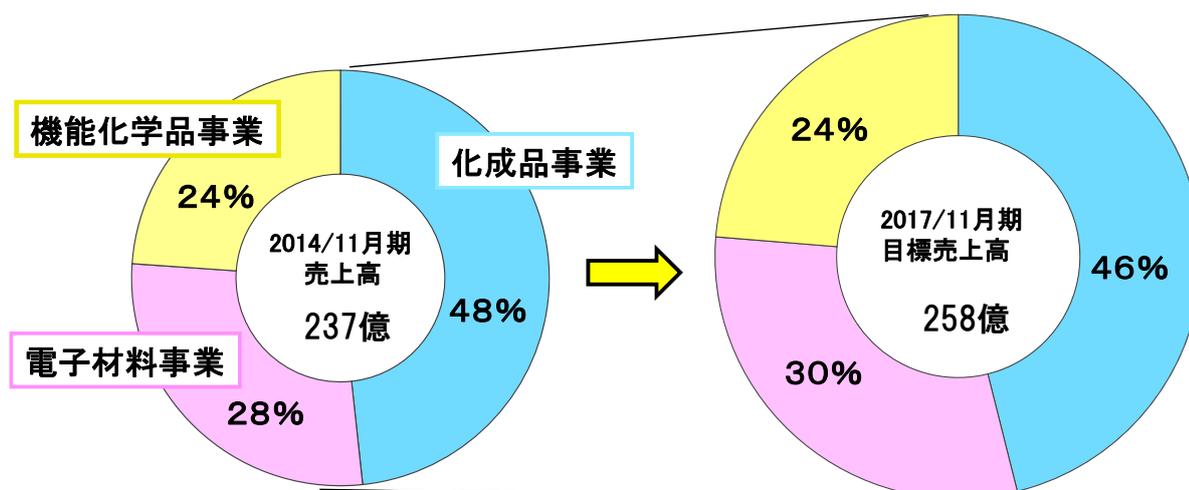


## 中期事業計画 収益目標(2017/11月期)

(百万円)

	'17/11月期 目標値		'14/11月期比	
売上高	<b>25,879</b>	23,790		<b>109%</b>
営業利益	<b>1,622</b>	1,358		<b>119%</b>
経常利益	<b>1,710</b>	1,468		<b>116%</b>
当期純利益	<b>1,103</b>	891		<b>124%</b>

## 中期事業計画 売上構成比(2017/11月期)



### 中期事業計画の方針

- ・化成品事業の製品構成の見直し
- ・電子材料事業の成長による収益の確保
- ・機能化学品事業の育成

## 中期事業計画 <設備投資・減価償却費・研究開発費>

(億円)

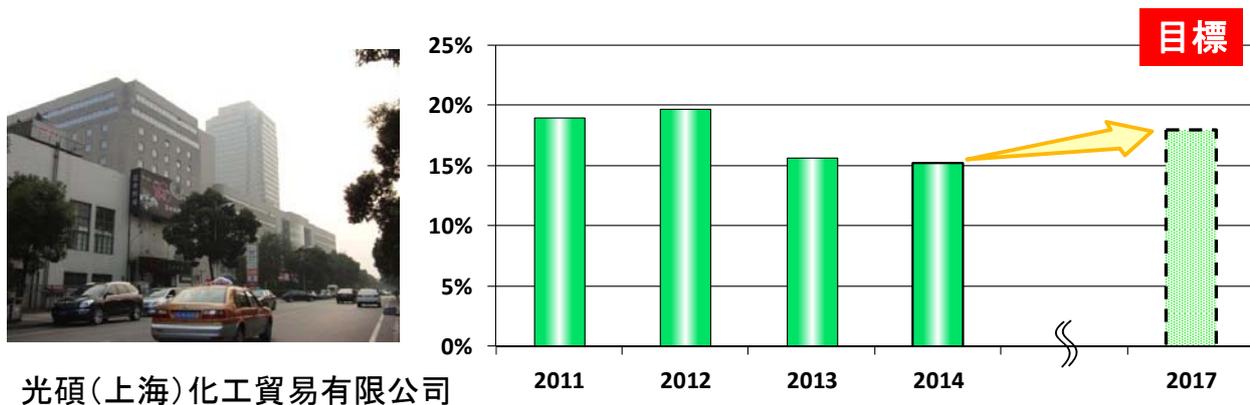
	過去3期計 ( '12/11 ~ '14/11 )	3期累計予想 ( '15/11 ~ '17/11 )	
			増減
設備投資	60	77	128%
減価償却費	43	54	126%
研究開発費	30	38	127%

### 主な設備投資

- ・電子材料関連製造設備
- ・研究試作設備及び分析機器
- ・福利厚生設備

## 中期事業計画 海外展開

海外売上高比率



光碩(上海)化工貿易有限公司

- ・当社グループ初の海外現地法人の光碩(上海)化工貿易有限公司を設立(2014年1月)
- ・顧客の海外展開への対応と競争力のある製品の販売を推進することにより、2017年度には海外売上高比率18%を目指す

## 中期事業計画 化成品事業

### 事業環境

- ・国内産業の伸び悩み
- ・市場の中心はアジアおよび米国

### 中期の展開

#### <事業の強み>

- ・アクリル酸エステルの豊富なラインナップ
- ・アクリル酸エステル製造技術の研鑽

海外市場への拡販強化 (4-HBA等)  
製造拠点の集約・プロセス改善  
用途の多様化

競争力のある  
製品をより強く

新製品開発  
新規製造プロセスへ

用途開拓

基盤事業  
としての強化

## 中期事業計画 電子材料事業

### 事業環境

- ・液晶パネル、半導体を用いたデバイス生産は韓国、台湾、中国が中心
- ・光微細化プロセスがキーポイント
- ・市況による変動と短い技術サイクル

### 中期の展開

#### <事業の強み>

- ・光微細化プロセスのキーマテリアルであるアクリル酸エステルの開発から生産を一貫して行える
- ・高度な品質管理実績

海外展開強化とシェアアップ  
マーケティング  
技術サポート  
他社との差別化

量的拡大

次世代材料開発  
高精細PS材料・絶縁膜材料  
光制御材料・次世代レジスト材料

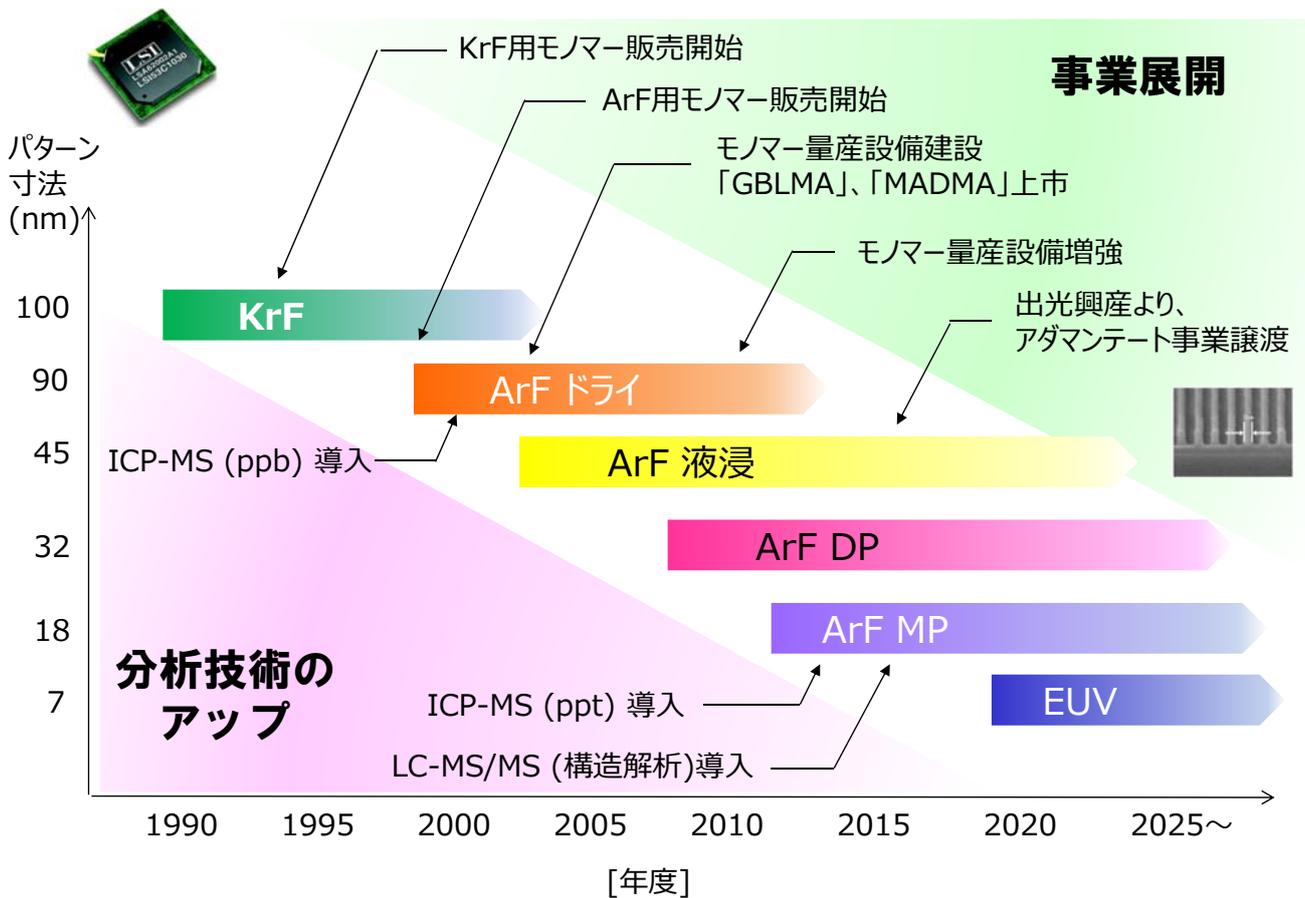
市場をリード  
する材料

安定した  
高収益確保

# PSの高精細化とディスプレイの高解像度



# リソグラフィ技術の変遷と事業展開



## 中期事業計画 機能化学品事業

### 事業環境

- ・アジア圏の化粧品市場の高品質化と購買力向上
- ・酢酸エステル・特殊溶剤は高機能用途にシフト

### 中期の展開

#### <事業の強み>

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

化粧品基材の海外展開

強みを生かした  
分野展開

次期成長  
分野開拓

新規機能材料の販売促進

新規市場開拓

## トピックス:テクニカルセンター設立(金沢工場)

(目的)

- ・設備工事の内製化によるコスト削減
- ・工作技能の教育伝承

大阪有機化学工業は金沢工場にテクニカルセンターを建設、このほど竣工した。工場内の機器の内製化を強化するが目的で、内製化のための教育も行う。建設に際し隣接する約3000平方メートルの工場跡地を購入、建屋などを有効利用するなど

**金沢に技術センター開設**  
大阪有機化学 工場内製化を推進

化学工業日報 2014年12月19日

金沢工場にテクニカルセンター  
大阪有機化学工業  
大阪有機化学工業は金沢工場(石川県白山市)に「テクニカルセンター」

った設備メンテナンスの内製化を進めるため、同拠点を開設した。旋盤やフライス盤、溶接設備などメンテナンスに必要な設備を導入した。ポンプやバルブなどのカットモデルを置き、プラント構造を学べるようにした。プラントオペレ

日刊工業新聞 2014年12月30日

## トピックス：テクニカルセンター設立（金沢工場）

（目的）

- ・設備工事の内製化によるコスト削減
- ・工作技能の教育伝承



大阪有機化学工業株式会社

OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ご参考資料1 比較連結貸借対照表

単位:百万円

項目	'13/11末	'14/11末	増減	備考
資産合計	31,315	34,435	3,120	事業譲受によるのれんの増加
流動資産	15,632	16,660	1,028	現金及び預金の減少 受取手形及び売掛金の増加
有形固定資産	9,988	10,896	908	
投資その他の資産	5,480	6,018	538	投資有価証券の増加
負債合計	8,066	10,294	2,228	
流動負債	6,399	7,682	1,283	支払手形及び買掛金の増加 未払金の増加
固定負債	1,667	2,611	944	長期借入金の増加
純資産合計	23,248	24,141	893	利益剰余金の増加 その他有価証券評価差額金の増加
少数株主持分	214	220	6	
負債純資産合計	31,315	34,435	3,120	

## ご参考資料2 キャッシュ・フロー(連結)

単位:百万円

項目	'13/11期	'14/11期	増減	備考
営業活動によるキャッシュフロー	2,596	1,038	△1,558	税金等調整前当期純利益、 減価償却費、売上債権増加、 たな卸資産増加額、 仕入債務増加額
投資活動によるキャッシュフロー	△774	△2,459	△1,685	定期預金の預入による支出、 定期預金の払戻による収入、 有形固定資産の取得による支出、 のれんの取得による支出
財務活動によるキャッシュフロー	△1,154	140	1,294	長期借入による収入、 長期借入金の返済による支出、 社債の償還による支出、 配当金の支払額
現金及び現金同等物の増減額	666	△1,297	△1,963	
現金及び現金同等物の期首残高	3,080	3,747	667	
現金及び現金同等物の期末残高	3,747	2,450	△1,297	